◉ SEE（Sexuality Education and Empowerment）性教育アカデミー 2018 報告

性教育における価値と倫理

2018 年 7 月 28 日（土）、29 日（日）の 2 日間、大阪府立大学 I-Site なんば（大阪市浪速区）において、「From What to Learn to How to Lesrn（何を学ぶから、どう学ぶかへ）」をモットーに、スクール形式を抜け出し、受講者（20 名）との対話を重視したプログラムの「SEE 性教育アカデミー 2018」が開催された。その概要をレポートする。

はじめに

東京都教育委員会は、2018 年 8 月に都内全 624 校の公立中学校の校長を対象に学校における性教育の調査を行った。調査によると 9 %にあたる 55 校が、避妊法や人工妊娠中絶など中学の学習指導要領に示されていない内容について授業で指導している、する予定である、と回答している。また、「学習指導要領に示されていない内容を指導することも必要だと思う」という項目に対し、4 %が「とてもそう思う」、42%が「そう思う」と回答しているという。

この調査でも「性教育」の必要性が、学校現場で認識されていることが分かる。その一方で、「必要だが実施されていない」という現状も見えてくる。実施されていない理由の一つに、性教育を行う指導者不足がある。

SEE（Sexuality Education and Empowerment）は、10 年間続けられてきた「関西性教育研修セミナー」を発展的に解消、学校や地域社会で、これから性教育をしていきたい、あるいは立場上しなければならない人たちの育成を一つの目的として設立された。SEE 性教育アカデミーは、その設立記念講演会を 4 月 19 日（木）に大阪・梅田ガクトホールで、カナダ・ヴィクトリア大学のアーロン・デヴォー教授（社会学）を招いて「トランスジェンダーの歴史」をテーマに開催（本紙 No.88：2018 年 7 月号で報告）したが、本格的なプログラムは今回が第 1 回目になる。

性教育実践者のための性教育

SEE がモデルとするのは、ユネスコなど国連諸機関や国際学会が推奨する「包括的なセクシュアリティ教育」(CSE：comprehensive sexuality education) である。性教育と一口にいっても、その実態はさまざまである。性に関する知識を扱えば「性教育」で、網羅するトピックが多ければ「包括的」といえるわけではない。

今回のプログラムは、初学者はもちろんのこと、実践経験者にとっても包括的セクシュアリティ教育（CSE）の基盤となる価値（人権・多様性尊重など）について学び直し、スキルアップや授業研究に役に立つプログラムの提供を目指した。

2 日間にわたる第 1 回 SEE 性教育アカデミーのプラグラムおよびスケジュールは、次ページの表のとおりである。

7月28日（土）		7月29日（日）	
10:00	性教育の５Ｗ１Ｈ　東優子（大阪府立大学）	09:30	ふりかえりワーク　東優子（大阪府立大学）
10:30	人権としての性教育　小貫大輔（東海大学）	10:00	性と生殖の健康　池上千寿子（ぷれいす東京）
12:30	昼食（参加費に含まれません）	12:00	昼食（参加費に含まれません）
13:30	価値と性の倫理①　トンミ・パーラネン（セクスポ財団）通訳付	13:00	多様性・つながり・実践　土肥いつき（京都府立高校）
15:30	コーヒー・ブレイク	14:00	性の安心と安全　野坂祐子（大阪大学）
16:00	価値と性の倫理②　トンミ・パーラネン（セクスポ財団）通訳付	15:00	ふりかえりワーク　吉田博美（駒澤大学）
18:00	ふりかえりワーク＆懇親会	16:20	修了証書授与
20:30	終了	16:30	終了

第１日目　７月28日（土曜日）

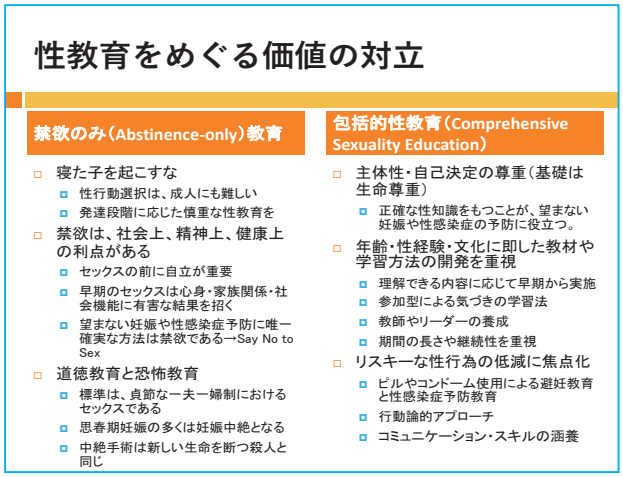
性教育の５Ｗ１Ｈ

最初の講義は、大阪府立大学地域保健学域教育福祉学類教授で、SEE の共同代表の東優子氏。テーマは「性教育の５Ｗ １Ｈ」。

性教育の５Ｗ １Ｈの５Ｗとは、「When（いつ）」、「Where（どこで）」、「Who（誰が）」、「What（何を）」、「Why（なぜ）」、１Ｈとは、「How（どのように）」である。

東氏は、「性教育の５Ｗ １Ｈ」をめぐる世界的な論争の歴史と世界の現状をを詳しく紹介・解説された。

現在の米国社会と性教育、「禁欲のみの教育」と「包括的性教育」という性教育をめぐる価値の対立の構図、その違い。また「禁欲のみの教育」の何が問題なのか。その問題点について。「性の健康と権利」に関する概念の進化と定着について過去25年を辿って、さらにWAS（世界性の健康学会）による「性の権利宣言」の詳しい内容など、性教育の基礎・基本に関する講義があった。



受講生からは、次の様な感想が寄せられた。

- 知識ゼロの私にとって、肩の力が抜けた導入でした。
- 今までの性教育の流れ論争（日本と米国）がわかりやすく学べた。

人権としての性教育

東優子氏に続いて、午前10時30分より「人権としての性教育」というテーマで、東海大学教養学部国際学科教授の小貫大輔氏の講義が12時30分まで行われた。

小貫氏は、ハワイ大学に留学、東氏に先んじてミルトン・ダイヤモンド教授のもとで性教育を学んだ後、ブラジルのサンパウロのファベーラ（貧民街）でコミュニティづくりに取り組んできた経験をもつ。その後、JICA 派遣専門家として自然分娩推進や子育て支援をめぐる国際協力活動に携わった。ブラジルの経験を中心に、①人権保護・擁護を目的とした教育、②性教育〝への〟権利、について、グループワークを交えた講義を行った。

小貫大輔氏のグループワークの様子

小貫氏の講義には、

- 教育を受ける権利でなく「性教育への権利」という視点をはじめて学ぶことができた。ブラジルのムービー、感動しました。

- 座学に馴染みすぎているので、自分が参加型のワークにちょっと苦手意識をもつことに、改めて気づかされた。
- お辞儀、握手、ハグ＆キスの授業、面白く、いい内容だと思う。もし、嫌だなと思う相手と当たってしまったら、超微妙だとは思った。

などといった様々な感想があった。

価値と性の倫理

昼食休憩をはさんで、フィンランドのセクスポ財団の代表で WAS の性の権利委員会委員長であるトンミ・パーラネン氏の「価値と性の倫理」と題する講義が行われた。

トンミ氏は、ヘルシンキ大学で「哲学的な性の倫理」で博士号（哲学）を取得、性教育の先進国といわれるフィンランドを代表するセクスポ財団の代表として国際的に活動をしている。セクスポ財団は、性教育・カウンセリング・研修サービスを提供する専門組織で、その世界的な活動の様子を、コーヒーブレイクをはさんで語ってくれた。

トンミ・パーラネン氏と講義の様子

トンミ氏の講義には、多くの感想が寄せられた。そのうちのいくつかを紹介する。

- 非常に良かったです。確かに国の政策や文化が違うことは明らかなのですが、とても参考になりました。倫理と権利についてはどのように考えればいいか、またすべての性教育の根幹になっているところだと改めて理解した。野坂先生や東先生が行かれたツアーのビデオ、さり気なく流されていましたが、背景や空気感が伝わってきて、トンミさんの話とつながり、私はあれがあったのでよかったです。
- なかなかふれることができないフィンランドの最先端の性教育の話をきくことができてとても世界が広がりました。
- 新しい情報を含めて、ポジティブに性をとらえることの大切さを考えるきっかけになりました。世界の性に対する捉え方に触れられて感動、でも難しい。

トンミ氏の講演後、午後６時より１日目のふりかえりワークが行われ、その後、会場を代えて懇親会が行われた。

第２日目　７月 29 日（日曜日）

性と生殖の健康

２日目は、午前９時 30 分より開始。初日のふりかえりワークの後、特定非営利活動法人ぷれいす東京理事の池上千寿子氏の「性と生殖と健康」と題する講義が始まった。池上氏は、1982 年からハワイ大学の「性と社会太平洋研究所」でミルトン・ダイヤモンド教授のもとでセクソロジーを学び、帰国後 1994 年にぷれいす東京を設立しエイズ予防やケアの活動に従事、2012 年まで代表。池上氏は、2005 年にエイボン女性教育賞、2009 年に日本エイズ学会アルトマーク賞、2011 年 WAS 金賞を受賞している。

2005 年性の健康世界学会（WAS）の「モントリオール宣言」の詳しい解説など、池上氏の独特の語り口による講義は、受講者を感動させた。

- 性の権利宣言、モントリオール宣言、その理念を深めることができ、今の性教育実践を見直す必要性を実感しました。
- 人権って…？　を改めて考える機会となりました。中条流や川柳のお話、おもしろかったです。

池上千寿子氏と講義の様子

- 先生の問いかけについて、１つ１つ考えること、またその中で感じることを大切にして、新たな問いを持てるように意識していきたいと思いました。
- 日本の文化を知ることは、外国の教育を取り入れるときにもとても大切なことだと感じた。病いを抱えない人はおらず、病いを抱えながらも健やかに生きていくことが大切だという考え方は今後も大事にしていきたい。
- 池上先生そのものに触れさせて頂けた体験が“宝”です。パワー、知識、見聞、歴史、全て全てに圧倒されました。日本のことを知らないでいたことに気づかされたセッションでよかったです。天は人の上に人をつくらず、人の下に人をつくらず
- 「肩の力を抜こう」「自分への気づき、楽に、伝えよう」→とてもステキで印象に残りました。「戦う」んじゃなく、コツコツ「伝える」をやっていきたいです。すばらしい学びをありがとうございました！

多様性・つながり・実践

『「ありのままのわたしを生きる」ために』(JASE 刊)の著書の土肥いつき氏は、セクシュアル・マイノリティ教職員ネットワーク副代表、トランスジェンダー生徒交流会世話人の活動、またトランスジェンダーの当事者、教員として、「ありのままに生きてきた」ご自分の体験と実践活動を中心に語られた。実践活動がみとめられ、2016 年に WPATH（トランスジェンダーの健康に関する国際的な専門組織）の Outstanding Student Contribution Award を受賞している。

以下は、講義への感想。

・学校現場の生の声が聞けた。教員の積み重ねによる継続した関わりと教育との相互、このあたりのいつきさん流表現はとても胸にしみた。

土肥いつき氏の講義の様子

- 現在の「LGBT」人権学習とか研修の問題点について、まさにそう！　と強く共感しました。同和教育の歴史に学ぶ、ダブルマイノリティなど「私」を構成する要素の多層性などの重要性も実感しました。
- 学校内での取り組み、つなげ方、教育は続いていくんだということを学べました。
- 「すべての人権問題の中にジェンダーの問題が含まれている」まさにそうだと思いました。ジェンダーの問題に限らず、「人権そのもの」について改めて考えていこうと思いました。
- 知識を与えることは、時として、子どもの「知りたい」という気持ちを奪ってしまうこと、気づきを奪ってしまうことに気づき、ハッとさせられた。「子どもから学ぶ」という態度を実践していきたい。

性の安心と安全

大阪大学大学院准教授の野坂祐子氏と駒沢大学学生相談室常勤カウンセラーの吉田博美氏が２日間の最後の講義とふりかえりワークを務めた。お二人とも臨床心理士で、野坂氏は SEE の共同代表、吉田氏は SEE の事務局長である。

短い時間であったが、バウンダリー（他者との境界線）について具体的に分かりやすく解説された。お二人の講義には、次の様な感想が寄せられている。

- 境界線の話はとても深く、もう少しグループ内でも話したかったです。自分の生き方、環境によって変わるという点もすごく関わってくることなので、NO と言える、YES でもリスクを考えられる訓練が必要だと強く感じました。
- 同意のビデオはとても利用しやすい。有難うございます。短時間だったが実践に活かせる内容であった。境界線の話はもう少し聞きたかった。

野坂祐子、吉田博美両氏のグループワークの様子

１日目の講習終了後、懇親会の講習者とスタッフ

- それぞれの意見をホワイトボードに書き出してくださって、わかりやすかった。
- 「境界線や同意について、どのように伝えるとよいのか」と方法についてばかり考えていましたが、まずは自分の境界線と同意について考えていきたいと思います。
- グループワークで、一人だけでは絶対に出なかったような意見をたくさん聞くこと、そして、自分からも話すことができてよかった。
- 自分（支援者）のこととしてディスカッションができ、様々な気づきがありました。
- バウンダリーの話、ワークがとてもよかったです。グループワークで今まで話せなかった参加者と意見交換できてよかったです。

２日間の講義への感想は、以下の感想でその内容の充実さがわかる。

- 内容が非常に充実していた。理論だけではなく、実践の話もよいバランスで学ぶことができた。
- 盛りだくさんの内容でしたが、たくさんの問いを投げかけていただいたので、１つ１つ解決していきたいと思います。
- グループディスカッションなどの機会が多く、新たな視点を持つこと、新たなことに挑戦すること、自分を見つめ直すよい機会になった。

共催団体　SEE(Sexuality Education and Empowerment)
大阪府立大学教育福祉研究センター・セクスポ財団（フィンランド）
協賛団体　日本性教育協会
後援団体　大阪府立大学女性学研究センター

JASE 性教育・セクソロジーに関する資料室

資料室について

JASE 資料室は国内外の性教育、性科学等に関する文献資料を収集している開架式資料室です。文献資料の数は約６万点以上、現在も日々、増え続けています。性教育、セクソロジーに関する調査、研究のためにご利用いただけます。人間の性に関心がある方、ぜひ足をお運びください。

資料室利用方法

【閲　覧】必ず事前に電話で予約が必要です（tel 03-6801-9307）。貸出業務は行っておりません。
【開室日・時間】月～金曜日 10：30 ～ 17：30
【休室日】土・日曜日、祝日、年末年始　※この他、会議等で臨時に休室することがあります。
【コピーサービス】コピー料金は用紙サイズにかかわらず１枚 10 円です。著作権法の許容する範囲で行うものとします。
http://www.jase.faje.or.jp/pub/archive.html

収集文献・資料

統計・調査報告書、ジェンダー・フェミニズム、性教育一般・性教育の歴史的資料、国内雑誌、障害者、セクソロジー（自然科学系、人文・社会学系）、民俗学・文化人類学・風俗、性研究史・性学史、教科書・指導書・学習指導要領、幼児期～青年期、国内学術誌、国際（海外団体資料・海外学術誌）、高齢者・家族問題、文学・評論・エッセイ・文庫・新書、官公庁資料、JASE 刊行物、映像資料、個人論文、雑誌記事、新聞記事、絵本・写真集・マンガ、江幡・篠崎・朝山・石川・ダイアモンド文庫、ほか。
http://www3.jase.faje.or.jp/cgi-bin/search1.cgi